

次期大阪狭山市教育振興基本計画（令和2年～6年度）の体系・骨子

国・府の方向性

- 問題発見力・チャレンジ精神・解決能力の修得
- 社会的・職業的自立に向けた確かな学力の育成
- ICT活用のための基盤の整備
- グローバルに活躍する人材の育成
- 社会貢献意識の向上と思いやる豊かな人間性の育成
- 体力向上と生活習慣の定着による健康づくり
- 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導体制の整備等
- 教員の資質向上に向けた取組みの充実
- 校種間連携の推進
- 多様な教育的ニーズに対応した教育機会の提供
- 家庭の経済状況や地理的条件への対応
- 安全・安心で質の高い教育環境の整備
- いじめや不登校、体罰等の対応の強化
- 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進
- 関係機関・団体の連携
- 人生100年代を見据えた生涯学習の推進
- 人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進
- 職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進

アンケート調査結果（回答の傾向）

- ◆大阪狭山市の子どもたちが将来どのような人になってもらいたいかについては、「思いやりがある人」の割合が高く、また学校教育で身に付けてほしい能力は「他者に対する理解と思いやりや優しさ」「言葉づかい、礼節、マナー」が重要であるという意見が多い
- ◆大阪狭山市の学校教育の中で、力を入れて行う必要がある取組は、「子どもの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する」「互いに認め合い、高め合える仲間づくりを行う」の割合が高い
- ◆大阪狭山市の子どもたちの教育について課題と思うことは、「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」に割合が高い。いじめについて、特に大切だと思うことは、「学校全体で、日頃から子どもたちの様子を注意深く観察すること」
- ◆子どもたちを取り巻く環境の変化としては、「学校におけるICTを活用した授業」「外国語を使う機会」の増加と、「家庭における生活力（お手伝いや身の回りのことをすること）」「地域社会での人間関係」「子どもと高齢者がふれ合う機会」の減少という意見が多い
- ◆子どもたち一人ひとりの学びを保障するために必要な取組みについては、「すべての子どもたちがともに学ぶことができる教育の充実」の割合が高い
- ◆学校・家庭・地域が相互の連携・協力することにより「地域で子どもを育てる機運が高まる」という意見が多く、連携・協力する上で大切なことは「学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」
- ◆生涯学習・文化・スポーツなどの活動を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように生かしたいかについては、「自分の人生をより豊かにし、生活に張りを与えること」の割合が高い
- ◆生涯学習の一環として、人々が学びたいときに学べるようにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思うことは、「気軽に学習に取り組める雰囲気づくり」
- ◆大阪狭山市の生涯学習・文化・スポーツなどにおける現在の取組みについて、思うことは、「狭山池など歴史文化遺産を活用したイベントや講座、シンポジウムが充実している」こと
- ◆大阪狭山市に愛着を感じている割合は8割を超えている
- ◆大阪狭山市の特徴や誇りとして、大事にしていきたいと思うことについては、「安全・安心な暮らしやすい生活環境」、次いで「日本最古である狭山池」の割合が高い

大阪狭山市の課題

- ◆「非認知能力」の展開に重点を置いた保幼小中の連携強化
- ◆「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」を改善するための、規範意識、自尊感情、他者への思いやり、主体的に判断し適切に行動する力などの育成
- ◆現代的な健康課題等に対応した「健やかな心身」の育成
- ◆一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援のための、高度な専門性を備えた支援員や相談員の配置
- ◆子どもが抱える課題に対し、組織的な支援を可能とする校内支援体制の構築
- ◆安全安心（防災等）やいじめ・不登校等への取組みの推進
- ◆人権尊重の精神や性的マイノリティなどへの対応
- ◆外国人生徒に対する日本語教育などの機会提供
- ◆よりよい学校運営を進めるための、外部支援員や地域資源の活用
- ◆経済的かつ効果的な施設整備の計画的推進
- ◆子どもの居場所づくりのための、放課後児童会事業との一層の連携
- ◆学校・家庭・地域間のスムーズな情報交換と、学校などを拠点とした連携・協力の体制構築
- ◆ライフステージに応じた健康づくりやスポーツの機会づくりの充実
- ◆必要な知識・技能の習得、知的・人的ネットワークの構築や健康の保持・増進に資する生涯学習の推進
- ◆市内の歴史文化遺産の価値や魅力の発信と積極的な保護活用による、郷土を愛する心の育成

第2回策定委員会における主な意見

- ### 地域と学校との連携・協働やコミュニティスクールの導入について
- 必要性は認めるものの、地域の実情として、自治会でも役員のなり手がなかなか見つからないなど、次代を担う人材確保が困難になっている状況であり、現在の地域活動は、団塊の世代が中心で、循環型の生涯学習のシステムというのが全く構築されておらず、近い将来、高齢化により地域が機能しなくなる。
 - このような地域実情・課題を十分理解したうえで、実現可能で効果的なコミュニティスクールの導入方法を検討してもらいたい。
 - 社会教育、学校教育、地域での教育によってこれからの社会を担う人材を育てていく実現可能なきっかけ作りができればよいと思う。

- ### 国語力の低下について
- 子どもたちが言葉に触れる、字を読む、本を読む環境をつくることや、特に幼少期、就学前の子どもたちの言葉に対する感覚を豊かにする、また文字に対する興味を持たせる機会をどう保障していくかということは、国語力の向上また、コミュニケーション力にもつながるので、読書環境の整備充実は重要である。

- ### 生涯スポーツについて
- 長寿社会を見据えた高齢者への取り組みを積極的に実施し、高齢者の健康を維持することで、医療費の削減を図り、それにより生み出される財源を子どもたちのスポーツ活動に還元するような仕組みを考えて、循環型の健康なまちづくりを目指すことはできないか。
 - 現在、さやりんピック事業への地域の方の参加が難しく、どうしてもイベント型の事業になりつつあるので、本来の事業目的・趣旨であった総合型地域スポーツの実施、また参加促進が課題ではないか。

- ### 郷土愛について
- 狭山池を活かすとともに、地域ごとの歴史文化（例えば、穴地蔵、地域のお釈迦さん、地蔵祭りなど）もあるので、地元に着した歴史を勉強してもらうことで、子どもたちがそこに住んでよかったと思えるような地元的な取組みを検討することで郷土愛が育まれるのではないかと。

基本方針・重点目標

(1) これからの社会を生き抜く力を養います

- (1) 遊びを通して豊かに学ぶ就学前教育・保育の充実
- (2) 社会の変化に即した新たな学びの展開
- (3) 豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進
- (4) 教員の資質向上

(2) 一人ひとりを大切に教育を推進します

- (1) 子ども理解と支援教育の充実・推進
- (2) 個の成長を支える教育の充実
- (3) 安全安心な学校生活の確保
- (4) 多様性理解の促進

(3) 持続可能な社会のための教育環境を充実します

- (1) 時代の変化に対応した学習環境などの整備
- (2) 学校経営改革の推進
- (3) 家庭教育の支援
- (4) 地域の教育力の育成と社会に開かれた教育課程の実現

(4) 郷土を愛し自ら学び、高めあう学習を推進します

- (1) 生涯スポーツ活動の推進
- (2) 生涯学習や文化芸術活動の推進
- (3) 歴史文化遺産の継承と活用
- (4) 郷土愛の育成